

## 2015年3月期 第2四半期 決算説明会

### 主な質疑応答

日時 : 2014年10月31日(金) 19:45 ~ 20:45

応答者 : 代表取締役 社長執行役員 幸後和壽

代表取締役 専務執行役員 瀬川達生

#### 1. トクヤママレーシア PS-1 (第1期プラント) について

Q : 特別損失の背景をもう少し説明して頂けますか？

A : 2013年2月に試運転を開始しましたが、同年12月の時点で、析出装置の生産物の品質に疑問符がつき、メーカーとの協議により小改造を行いました。その後、2014年7月末になっても、所定の生産性、品質が確保出来ないため、8月にメーカーによる性能保証テストを開始しました。数回にわたるテストをしましたが、すべて失敗し、商業運転の開始が大きく遅れることが判明したため減損の測定に入り、最終的に一部を除き減損損失を計上することとなりました。

Q : 製造した多結晶シリコンは太陽電池向けグレードとして使えないのですか？

A : 太陽電池向けグレードとしては使えると思いますが、生産性が低く、キャッシュの回収が見込めないため、一部を除き減損処理を行いました。

Q : 事業計画の見直しに伴う関連費用の11.2億円とは何ですか？

A : 電気代を引当計上したものです。

Q : 開発活動を継続するとのことですが、今後大きなコストアップ要因はありますか？

A : 大きなコストアップはないと思います。

#### 2. トクヤママレーシア PS-2 (第2期プラント) について

Q : 太陽電池向け多結晶シリコンの価格と PS-2 の収益は、今後どうなると考えていますか？

A : 太陽電池向け多結晶シリコンの価格はスポット価格並みと考えています。収益ですが販売価格20ドル/KG、EBITDAマージン30%以上を目標としています。この10月に7割程度の稼働になり商業運転を開始しました(販売価格はキャッシュコストを若干上回る)。それをフル稼働に持っていくのが来年度中になろうかと思っています。今回のローリング3ヵ年では、若干の投資を伴う改善のための工事が完了する16年度の初めから、黒字になっていく計画です。

Q : PS-2 の償却を 15 年から 25 年に変更した背景を教えてください。

A : 国際会計基準に従えば毎年、実際の設備等の耐久性を確認します。その結果、他社や当社の事例により 25 年というのが実際の経済的耐用年数との認識に立ちました。従って、その設備が会社に貢献してくれる期間に渡って償却していくのがより適切な会計処理であろうとの判断に基づいています。

Q : 下期の損益にもこの償却期間変更による償却減が反映されていますか？

A : 反映されています。

Q : PS-1 は析出装置の問題とのことでしたが、PS-1 と PS-2 は析出装置のメーカーが違うのでしょうか？

A : そうです。

### 3. ローリング 3 年計画について

Q : この度見直したローリング 3 年計画に塩ビ樹脂の構造改革は入っていますか？

A : 塩ビ樹脂の構造改革と窒化アルミニウム製造設備の増強は入っていません。それらは来年 4 月に発表するローリング 3 年計画に反映されることになっています。

### 4. 銀行借入、社債について

Q : バンクローンに関して、どれくらいのポーションがコベナンツに抵触していますか？社債も 500 億円ありますが、こちらもどうでしょうか？

A : 複数ある借入契約のうち一つが 9 月末時点でコベナンツに抵触しています。当該ローンの資金供給者である金融機関が権利を行使された場合、社債も含め他のほぼ全ての借入についてコベナンツに抵触します。ただし金融機関とはすでに話をしておりまして、前向きに検討いただいております。

### 5. オフバランス会計について

Q : 退職給付会計など、オフバランス会計のところでは何か変更が起こる可能性はありますか？

A : 現時点では何ら想定しておりません。

### 6. 従業員の士気について

Q : 社長として今後従業員の方々に向けてどういうメッセージを発信し、彼らをどのように引っ張っていかれるのでしょうか？

A : 全従業員に対してメールメッセージは本日すでに発信しました。連休明けの火曜に全従業員に web 回線を使って直接訴えます。私が果たすべき責任はトクヤマに信用力を

もう一回復活させるということです。そのために収益改善をしっかりとやり、企業価値を高めて、ローリング3ヵ年、100周年ビジョンを達成することです。

以上